

水辺再生100プラン 第2回元荒川水辺再生事業検討会

■時間、場所、出席者等

〔開催日〕平成21年8月7日（金）

〔主な内容〕

〔場 所〕竹林公園、鴻巣市笠原公民館

①現地見学

〔出席者〕県民提案者、地元自治会長、鴻巣市、埼玉県 他

②整備目標の構築について

③アンケートの実施状況について

①現地見学

第2回の検討会では、検討会出席者全員で竹林公園と元荒川の事業対象区間の現地見学を行いました。



竹林公園の状況



元荒川の状況



現地視察の様子

②整備目標の構築について

元荒川の整備については、環境教育の場として子供が遊べるような場所を創出すること、みどりの緑道である遊歩道との調和を図ることなどの意見を基に整備目標（イメージ）の構築を行っていきます。

<河川管理上の意見>（整備における前提条件）

- 現況の治水安全度を確保することを前提とし、河積を阻害するような整備は行わない。
- 整備の対象は左岸側とし、上越新幹線橋梁下流の120m程度を対象区間とする。

<河川環境上の意見>

- 環境教育の場として、子供が遊べるような場所の創出をしてほしい。
- 極力コンクリートではなく、自然に近いものにしてほしい。
- 伐採した竹を再利用できないか。
- 竹炭を川に沈めて水質改善に役立てられないか。

<利用上の意見>

- みどりの緑道である遊歩道の整備との調和を図ってほしい。
- 竹林公園のさらなる整備を行うことで、水辺への関心が高まるのではないか。
- 坂路を設けるなどして、川に人が入りやすくしてほしい。
- 子供が川に近づかない根本の原因を解決するべき。

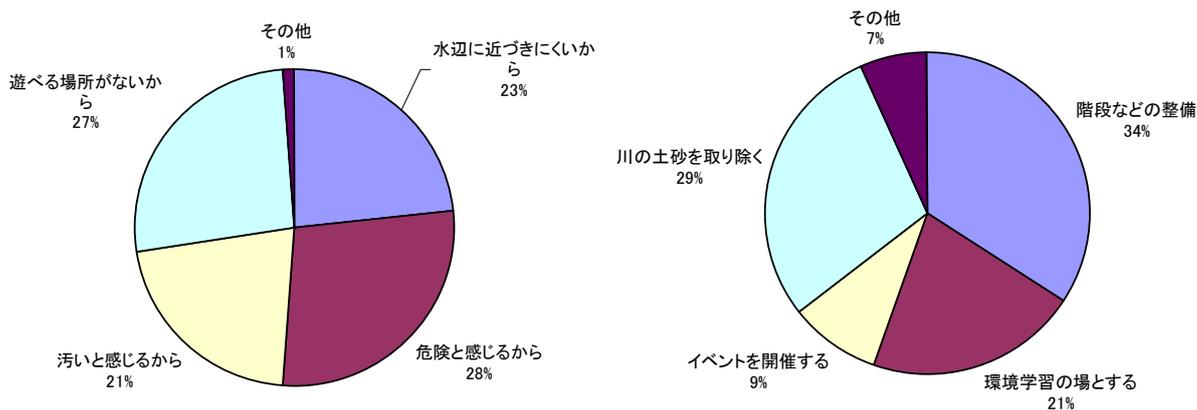
<維持管理上の意見>

- 洪水時にピオトープが流失したり、土砂が堆積するなどの問題が生じるのではないか。
- ピオトープより蛇籠や階段を設置した方が維持管理・安全面で良いのではないか。

整備目標(イメージ)の構築

③アンケートの実施状況について

事業箇所の近隣住民を対象に、元荒川に対するイメージなどのアンケートを行いました。第2回検討会では、アンケート調査結果の中間報告を行いました。



アンケート結果の速報



第2回検討会のようす

第2回検討会では、メンバーの方々から以下のような意見が出されました。

<整備内容について>

- 大雨などによる増水時に、ビオトープが流出する可能性がある。ビオトープを造るなら流出しない対策案を考えてほしい。
- 子供が遊んで、怪我をしないような対策をしてほしい。
- 近隣小学校の周辺は自然が豊かなため、ビオトープを造っても子供は来ないのではないか。それよりも護岸や階段を造り、人が近づきやすくした方が良いのではないか。
- 法面の傾斜は緩くしたいが、現況と大きくは変えられないと思われる。最低限の安全確保は必要だが、今回のような2割程度の傾斜では転落防止柵なども必要なく、むしろ親水性が損なわれることから今回の整備に含めるのは難しいのではないか。

<維持管理について>

- 竹林公園の除草作業をしているボランティア団体のメンバーは農業者、高齢者がほとんどである。ビオトープの管理まで行うのは難しいのではないか。
- 水辺再生事業では、事業後の維持管理は市と地元の方々で行うことが基本方針となっている。危険な作業、労力の大きい作業は県で行うが、監視や清掃については、水辺の里親制度で新規団体を募るなどして、地元の方々にも参加してほしい。

<整備のとりまとめについて>

- 整備案を作成し（ビオトープ案、親水護岸案、水路案）、次回の検討会に示してほしい。